

## イシガレイの成長の遅れ

### ■小さく少ないイシガレイ

4月の段階で成長の遅れが見られ、5月にある程度取り戻したかに見えたイシガレイであるが、今回の調査では成長の遅れが目立っている。数も少なく、データをとるため10数匹を採集するのに2時間ほどかかっている（昨年までの約2倍）。Table.1は4年間の採集日とイシガレイの平均全長を表したものであるが、今年のデータには成長の遅れが見られる。例年であれば8月に入ると、7～8cmに成長したイシガレイは外海へ移動し干潟内や河口域で採集することは出来なくなるが、今後の推移に目を向けていきたい。

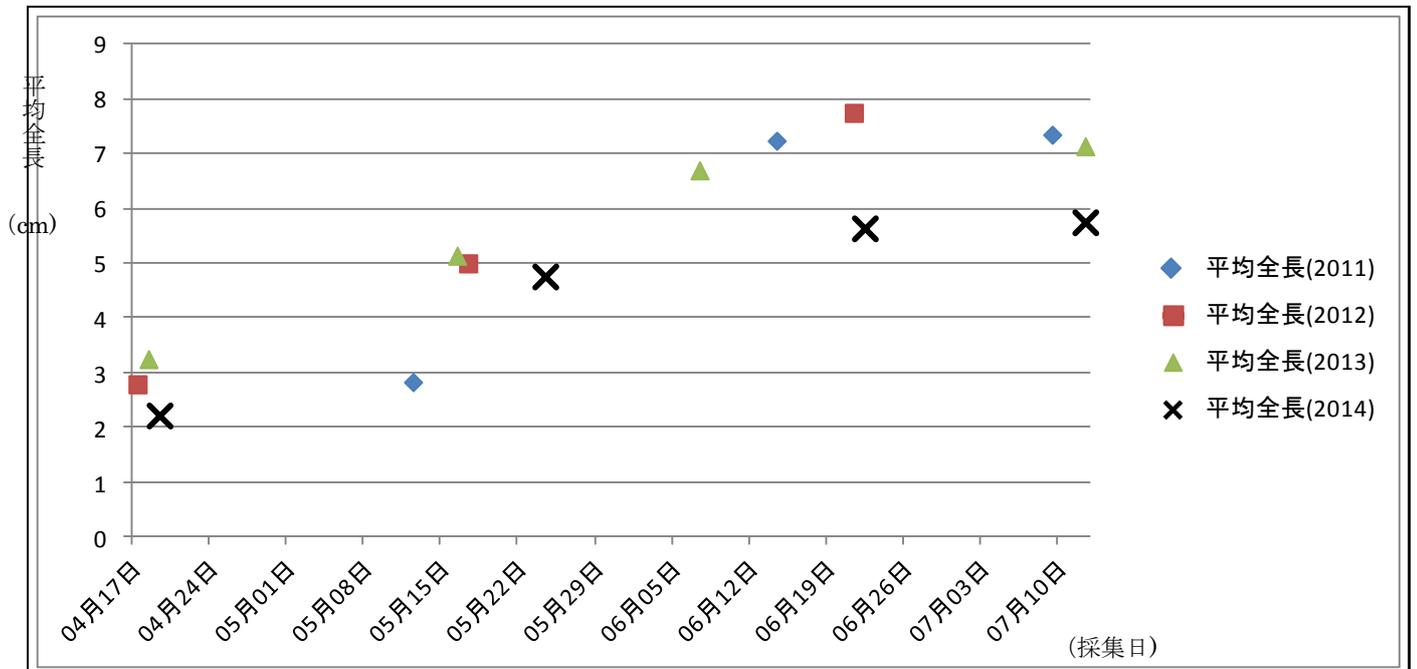


Table.1 2011年～2014年のイシガレイの採集日と平均全長

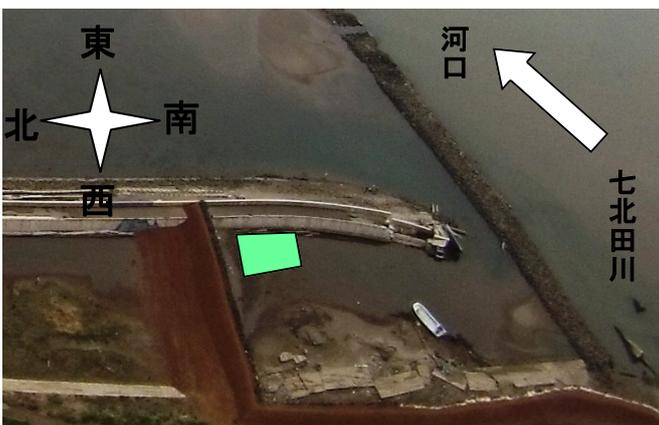


Fig.1 干潟南端の泥地

### ■新たな泥地

Fig.1は蒲生干潟南端、導流堤の基部である。緑色の部分に泥が堆積し、泥地を好むチゴガニ・ヤマトオサガニ (Fig.2)の分布が確認された。現在の蒲生干潟は泥地が少なく、泥地を好むチゴガニ・ヤマトオサガニの分布は限られている。この場所は泥から砂へと底質が変化していく環境が見られアシハラガニ・コメツキガニも生息している。様々な種類のカニが生息する貴重な環境である。



Fig.2 Fig.1に生息するヤマトオサガニ

(佐藤 賢治)